

# ヤマハニュース

YAMAHA NEWS

12

1975 DEC. NO.150

【特集 第21回東京モーターショー】



ニューライフバイク、魅力の新車群にわくヤマハコーナー

# 安全により大きな信頼を！

## 指導員テクニカルスクール開講



二輪車専門の指定自動車教習所「テクニカルセンター磐田」では、ヤマハ安全運転推進本部と密接な協力のもとに〈指導員テクニカルスクール〉を開講しました。

これは指定自動車教習所の二輪技能指導員の方、あるいは二輪車安全運転推進委員会の指導員の方など、学校教育者を含めて、日頃より二輪車の運転者教育に従事する方々を対象に指導能力の向上を期したものです。

内容は、受講目的別に基本コース、規定教習コース、大型二輪者コースに分かれ、『なぜ、そうすることが大切か』という指導ポイントを中心に二輪車

運転の基本を学び、指導能力を高めるものとなっています。

講習は「テクニカルセンター磐田」で行われ、各コースとも2日間の日時を必要としますが、出張講習にも応じます。

ひとりでも多くのすぐれた二輪ライダーを育て、バイクのある便利な、楽しい生活を広めるためにも、二輪運転者指導員の積極的な受講をおすすめいたします。またヤマハ販売店のみなさまからも、どうぞ協力関係にある自動車学校にお知らせください。〔写真は大型二輪コースを受講中の愛知県公安委員会・西尾自動車学校二輪技能指導員のみなさん〕

静岡県公安委員会指定

公認  **テクニカルセンター 磐田**

〒438 静岡県磐田市新貝2800 ☎(05383) 4-2725

特集・第21回東京モーターショー

# バイクでニューライフ、ヤマハコーナー

二年ぶりに開かれた第21回東京モーターショーは、おなじみの東京・晴海の国際貿易センターを会場に十月三十一日から十一日間の会期で開催され、延べ九十八万一千四百人におよぶ観客を動員して幕を閉じました。

「くらしをくるまにのせて」を共通のテーマとした今回のショーで、ヤマハは「バイクでニューライフ」のテーマのもとに、生活の手足となる50cc車群、すぐれた技術の4サイクル車／2サイクル車群を展示、さらにモータースポーツランド營生に象徴されるスポーツレジャー、安全教育の普及活動に力を注ぐ姿をつよくうちだし好評を得ました。

とくに来春以降に発売を予定される数々の新型車群は話題のマトで、二輪車館ずい一の人気を呼んでひさびさのショーを印象深いものとなりました。二輪車館のほか人気のトライアル車が商業車館のトヨタコーナーに、またスノーモビル、ゴルフカーが中央通りの特殊車展示場に出品されました。



ヤマハ50はみんなのバイク

# 期待の商品『GR50』

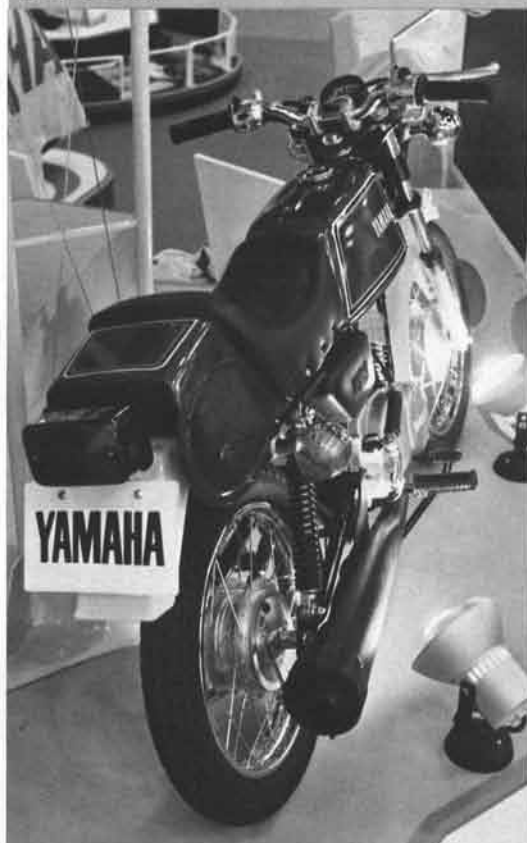


カフェレーサー、いわばホームメイド風の親しみやすさをもった新しいデザインで受けたミニスポーツバイク「GR50」

どこやらレーサー風の感触もあります。一文字型のハンドルバーからも分かるように、全体にスリムで、乗りやすさも抜群



ストッパー付きのシートはフォームラバー製の特製品。ライティングポジションを広くとまわせる



角型の燃料タンクは7と容量と大型。オイルタンクは14とで、消費量確認のオイルインジケーターランプ付。変速は5段リターン式





生活の手足となる50ccバイク。チャビィ、メイト、RD、MR、TY、そしてミニGTとヤマハの50はバラエティゆたかだ

## 注目的、新鋭「GR50」

ヤマハコーナーの中央、回転テーブルに乗せられた「GR50」を中心に、楽しく見やすいディスプレイで人気を呼んだヤマハ50ccバイクのコマは、老若男女を問わず多くの人々に常に賑わっていました。

それはみんなに愛され、親しまれてきたヤマハ50ccバイクのバラエティゆたかな商品性を物語るにふさわしい盛況ぶりでした。中でもとくに若者たちによくアピールしていたのがミニスポーツの新鋭「GR50」です。

「おっ、これがカフエレーサースタイルのミニスポーツってやつか。いいな、おい！」

「うん、あの長い大型のタンクと、TZみたいなレーサー風シートの組み合わせはいい感じだよな」

「それにさ、黒くて太いラップ状のマフラーがとってもいいアクセントになっているよ」

「これだったらちよつとしたツーリングにももってこいだな」

「来春発売予定か、待ち遠しいなあ」

まさに、ためつすがめつといった感じで見つけていた若者たちの会話を聞いた。

若者たちの言葉の他にも、オイル量を確認できるオイルインジケーターの採用など、盛りだくさんの特長をそなえた個性豊かなミニスポーツ「GR50」。早くもバイク仲間の注目の的となりました。

## 「あんなに楽しいバイクはない」

もちろんGR50以外の50ccシリーズの人気も大変なもの。その姿は、個性派ぞろいのヤマハ50cc車群が、いかに人びとの生活に密着し

た身近なものとなっているかを物語っていて、心づよいばかりでした。

展示台に置かれたマンダリンオレンジのチャビィLB50II・Aの前では、「うちの娘に買ってやりたいのですが、このバイクはオートマチックということですが、どういう機構になっているのですか」とヤマハの説明員に熱心な質問を浴びせる中年の紳士。またTY50の前では、「ボク今、中学3年で来年になったら原付の免許がとれるのだけど、これを買うには幾らぐらいお金を貯めておけばいいのかなあ」と、セールスについては詳しく知らないモデル嬢をあわてさせる男の子もいたりして大変なごきやかでした。

一方、自由に触ったりまたいだり出来るフロアーの方も押すな押すなの大盛況。小さな男の子をRD50のタンクに乗せ、奥さまをシートにまたがせて記念写真を撮っている人もいれば、GT50やMR50のコーナーでは中学生や高校生のヤングたちが順番を待ちきれず奪い合うようにバイクにまたがっています。「どうだいカッコいいだろう」「ぼくにも乗らせろよお」。

そんな中でチャビィにはずかし気にもまたがったステキな奥さま風の女性はこう話してくれました。「いままでは殆んどオートバイには関心なかったの。でも、テレビのコマーシャルを見てからすっかりこれが気に入って、一度じかに触ってみたかったんです。これオートマチックでしょう。乗りやすそうだし、それにテレビで見るよりもずっとチャーミングね」。

ミニスポーツ「GR50」を加えて一段と豊富な品ぞろえとなったヤマハ50ccシリーズ。来年もますます多くの人々の生活の手足となって活躍する期待の商品群です。

# 圧巻、ヤマハ4サイクル車群



◀「GX750」のスタイルは世界的にも人気の高いカフェレーサー風。ブレーキは前後とも油圧ディスク式。セルフリターン方式のフラッシュャー、ブローバイガス還元装置など、安全対策、排気ガス対策も万全の設計である

▼D・OHC3気筒並列に3into1の排気系を採用、シャフトドライブ方式で万場の注目を浴びた「GX750」



## 魅力に富んだ 4サイクル車シリーズ

ロードレースに、モトクロスに、トライアルに、国内外の主要なモータースポーツ・イベントで輝かしい成果をあげ、そのすぐれた技術開発力を高く評価されているヤマハが、いま、新しいビッグ・4サイクルをシリーズ化して出品、二輪車館を訪れたお客さまをヤマハコーナーに釘づけにしました。

ダブルOHC3気筒並列のパワーユニットにシャフトドライブ方式を組合わせた「GX750」、走りに徹した設計で斯界の権威筋からも高い評価を得ているTX500のカフェレーサー型「GX500」、そしてエンデュロマシンとして、また4サイクル単気筒車と

して最大の「XT500」の雄姿です。

すでに多くのお客さまから根強い支持を得ているTXシリーズに、新たにこれらの新型4サイクル車が加わったのです。

それぞれが個性もゆたかにすぐれた走行性能と信頼度も高い安全性を備えたヤマハ4サイクル車シリーズ。それは使用目的や使用状況、ライダーの能力に合わせてバイクを選びお薦めするこれからのご商売に、まさにジャストミートした商品構成でもあります。

やればできるゾ

センタースタンド起し

こうしたヤマハ4サイクル車コーナーは独自の雰囲気包まれていました。

じつと腕組みをして喰い入るような目でマ



▲バイクの世界に新しい息吹きを伝える「XT500」。いかにも力強いデザインだ

▶これがOHC単気筒の500ccかと思えるほどスリムなパワーユニット。潤滑はドライサンプ式で、フレームをオイルタンクとしている



装いを一新、世界の主流になりつつあるカフェレーサーデザインで登場の「GX500」。ブレーキは前後輪とも油圧ディスク式である

シンを見つめる人、隣りの人と目くばせしながら小声でなにやらつぶやく人、ためらいがちに手を出して、指でそっと確かめるようにマシンに触ってみる人、そして説明員の話にじっと耳をかたむける人……。そこはもみ合うほどの混雑にもかかわらず、カメラのシャッター音が耳障りなほどの静かさが保たれていたほどこです。

しかし、ふつふつと沸きあがる興奮は押さえがたく、どの顔も紅潮し、一様に熱いまなざしをみせていました。

二輪免許の改正にともない、大型二輪については運転能力の水準が大きく高められた試験内容となっていますが、市販車コーナーで

はTX750、TX650、TX500のハンドルをとり、センタースタンドを立てたりおろしたり、免許試験の内容を説明員に求めたり、ビッグマシンの変わらぬ人気ぶりがうかがえました。



この際、スタンドを立てる練習を……のお客さま

# 中型二輪を全面カバーする

## ヤマハ2サイクル車群

すでに定評あるトルクインダクションの2サイクル2気筒は大型フィン化で冷却効率を高め、エヤクリナー容量をアップするなど新設計が加えられた。特筆すべきは「RD250」まで、前後輪ともブレーキを油圧ディスク化したことだ。後方が「RD400」



すぐれた技術、すぐれたバイク——定評のヤマハ2サイクル技術の息吹がそのまま伝わってくるような2サイクルコーナーでは、中型限定免許フルサイズの「RD400」と敏しうな走りて人気の高い「RD250」の「新型」が、若いお客さまの熱い視線を集めていました。

また、50ccから250ccまで豊富なラインナップで新しいお客さまを生みだしているトリアルTYシリーズにも175ccが登場。伝統のDTシリーズの雄DT250も前面に展示され、RD、DT、TYとヤマハの2サイクルシリーズはより一層強力なラインナップで、お客さまのバイクライフ拡大に対応する積極的な姿を示したものです。

### 待っていたRD400!

新設計の7ポート・トルクインダクションエンジン、前後輪に装備された油圧ディスクブレーキ、個性的スタイルで登場した「RD400」「RD250」。中でも400cc車への関心は十月から改正された二輪免許制度による大型免許取得の難しさ、中型限定免許の400ccまで運転可という規定と合わせて大いに高まっていました。

もちろん、これはお客さまにもお店のみなさまにとっても関心度は同じ。熱心なみなさまで「RD400」にしばし見入っていた山崎オート代表・山崎敏雄氏（東京都足立区）は、待望の「400」登場をつぎのように語ってくれました。

「これで「DT400」とならんで、トレールとスポーツに「400」がそろったわけですね。うちのお客さまにも、大型二輪免許の取得が十月までかかってしまい、結局中型限定になった人が何人かいますが、やはりみんな「400」の登場を待っていますので、一



新しいデザインのメーターまわり『RD400』



セルフリターンのフラッシュスイッチを組み込んだ左グリップ部



透明で角型となったマスターシリンダーをもつ右グリップ部



おなじみのマフラーガードにTRIAL 175の文字が入ってTYシリーズも活況が期待される

## 待望の声高しTY175

日でも早く出してほしいところですよ」  
「従来のサンゴーとパワーは同じくらいですよ？ 50cc分のゆとりがきつと乗りやすさに現われてくると期待しています」

「いっぽう、ちよい乗り」からトライアルラン・ツーリング、そしてトライアル競技まで幅広く楽しめるトライアル車に、新たに「TY 175」が加わり、「50」「80」「125」「175」「250」と充実したシリーズを組むものとなりました。

もちろん新登場の「TY175」は、軽量にしてスリムな車体構成に、超低速から安定した力強さを発揮するフラット・トルク型の

エンジンをのせた本格派のコンペティションモデルです。

「12馬力のパワー、6段変速、81kgの車体重量。これはトライアルを知る若者にとって格好のモデルです。待望のクルマですよ」

ベルスタッフのトライアルマスターで身を固めた若いお客さまは目を輝かせてこう語ってくれました。

なお、ここに紹介した新型車はすべて来春に発売を予定しているものですが、必ずしもショーで発表されたままというものではありません。それはともかく、来るべき新しい年に備えて一層の飛躍を約束するこれら新商品には、お客さまの憧れと期待感が交錯して、かつてない歓迎ムードに包まれていたものでした。



トレールモデルに対する人気もなかなかのもの

# すぐれたバイクづくりの集大成 チャンピオンレーサー群



モータースポーツに高い関心を寄せる若者はもちろん、女性やご家族づれのお客さままで、想像以上に幅広いお客さまの興味をひきつけていたのが、『YZR500/350』、『YZM125』のヤマハレーサー群。

バイクの使用状況の中でも最もハードなロードレースやモトクロスなどの実戦で得られた技術成果が、やがて市販レーサーへ、そして最終的には一般車へと移行するのが、もはや周知のことであれば、すぐれた技術、すぐれたバイクづくりの集大成としてワークスマシンに大きな関心が寄せられるのも当然のこと。ここからお客さまはメーカーの技術力、



▶『YZM125』は、前面のゼッケンナンバーのプレートに「YZM125」の文字が記されている。

▲「ワークス」でない、これがチャンピオンマシンか、左から『YZM125』、『YZR350』、『YZR500』いずれもすべてリヤはモノクロスサスペンションで、エンジンは水冷トルクインタクションの2サイクルだ。



開発力ひいては一般車の優秀性を肌で感じとるのです。

それだけにワールドチャンピオンマシンに輝いたロードレーサー『YZR500/350』、ナショナルチャンピオンマシン『YZM125』がならぶワークスレーサー・コーナーの印象は強烈です。

いずれもヤマハ独自のモノクロス・サスペンションを装備。『YZR500』は7ポート・トルクインダクションの水冷4気筒、『YZR350』は水冷2気筒、そしてモトクロスサー『YZM125』までもモトクロスサーでは世界で唯一の水冷とあって、人びとの驚きも一段と高まっていたものです。

もちろん、このワークスマシンにつながる市販レーサーでも、ロードレーサー『TZ350/250』、『TA125』、モトクロスサー『YZ250/125』とヤマハは世界一のラインナップ、つぎからつぎへとまたがってみるお客さまたちは、カウリングにしばし身を伏せ、バイクのスピードの夢に話の花を咲かせていました。

# 楽しさと安全の輪を拡げる 総合スポーツランド菅生



◀モーターサイクルモラルの確立も菅生から。その役割を果たす楽しい乗り物も合わせてお目見得。家族ぐるみで遊べる「菅生」です。

▼健全なスポーツごころを育て、人々のふれあいの輪をひろげる菅生。ホウー、バイクライフはこんなに拡大することができるのか!



「バイクでニューライフ」をメインテーマに「ヤマハニューライフバイク」を提唱したヤマハコーナーの中で、「生活の手足としてのバイク：50cc」、「すぐれた技術、すぐれたバイク：4サイクル、2サイクルスポーツ/レーサー」となる支柱となったのが「健全なスポーツレジャーの育成の場：菅生・SL活動」です。

「バイクでニューライフ」のひろがり強烈に印象づけたものです。

「だしたコーナーです。」

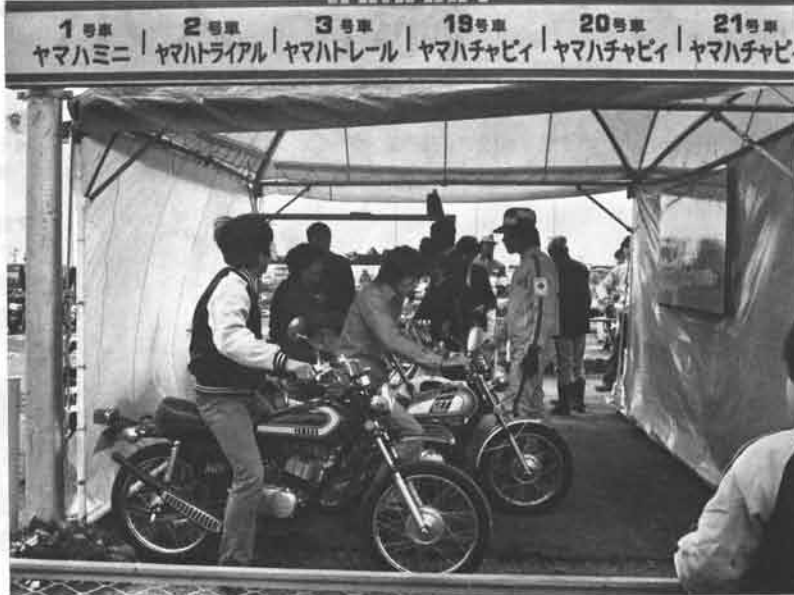
SL活動に安全運転普及活動、こうしたヤマハの幅広い活動を集約し、具現する場として、この五月にオープンした総合スポーツランド「菅生」を紹介。バイクをなかたちとして菅生に展開される、家族ぐるみのスポーツごころの育成をつうじ、バイクのある生活の楽しさを現わして、メインテーマ「バイクでニューライフ」のひろがり強烈に印象づけたものです。



バイクはきょうが初めてという人にはマンツーマンで乗り方を指導。

# の全安らちし楽

まずエンジンのかけ方、ブレーキのかけ方、スタートのしかたから……



## 潜在バイクファンが 押すな押すな

このファミリーバイクランドでは、16歳以上であれば、免許の有無にかかわらず試乗することができ、また初心者コースと経験者コースに分けられたり、事前にエンジンのかけ

「くらしをくるまにのせて」……。生活とくるまの結びつきが強調された今回のショーで、バイク部門もその効用と楽しさを体験し、正しい乗り方、安全に乗る基本的テクニックを身につけてもらおうと、二輪車の正しい乗り方教室、ファミリーバイクランドが、晴海の会場の南ゲート付近に設けられ、連日多くの人々が熱心に指導を受けていました。また会場の外でも、毎回多くの人が熱心に見つめ、バイクに対する関心の高さが感じられました。

方、スロットル操作、ブレーキのかけ方など、基本的なことを教えるなど、きめの細かい指導ができるように配慮され、さらに初心者には、インストラクターのマンツーマンによる、試乗した人は、やはりヤングが多くてのみこみもはやく、初めのうちは緊張しながらも徐々に慣れ、10分という限られた時間でものたりのない様子。指導にあたったインストラクターは、「このファミリーバイクランドが好評だったというのは、原付免許を持っている人ばかりでなく、免許のない人や、原付のついてくる普通免許を持っている人の中に、バイクに乗ってみたいと思っている人が多いということじゃないでしょうか。想像以上に多ぜいの人々が、バイクに触ってみる、乗ってみる機会が欲しいと思っているのですね」と語っていたのが印象的でした。

# え、バイクの乗り方を教えてくれる

## 盛況だったファミリーバイクランド



▲21回目の東京モーターショーに初めて設けられたファミリーバイクランド。



まったく初めてという人も入って、たくさんの人前でさっそうと。

# 2年ぶり、一日平均の 入場新記録をつくった 東京モーターショー ヤマハ・ア・ラ・カルト

アレッ、こんな中に「Y」が、商業車館  
アミタムナーで。



12才から参加できるモータースポーツは  
カート。「レッドアロー」も3年目、お客  
さまはグンと増えています



二輪車館の向かいには部品館。ヤマハ部品部の  
コーナーではヘルメットからステッカーまで  
豊富なオリジナル用品を展示、即売も行ない、  
地方配送の依頼も無い込むほどの人気でした



スノーモビルと並んでゴルフカーも登場。ヤマハはこん  
なに深く広く、人びとのくらしの中に入っています



会場を二分するメインストリートの特殊  
車展示場では、「ヤマハスノーモビル」が  
行き交う人々の足をとめていました

このときを境として、このテーマ館とは、  
社会生活と車の深いかわりあいを、ヤマハ  
代表は電々公社の青バイ



# 熱い視線を全姿に浴びて—『GX750』



ダブルOHC、並列3気筒、3into1マフラー、シャフトドライブ方式の「GX750」はすぐれたヤマハ技術を示す最上級車種としてお客さまの関心はすこぶる高く、熱烈な視線を浴びていました。[写真下は「バイクでニューライフ」のヤマハコーナー全景]









# バイク。4cycle & 2cycle

全活動を普及するヤマハです

## バイクでニューライフ

天気の良い日はバイクに乗ろう。  
ヤマハニューライフバイク



RD400



デザインを巧みに織りこ  
000」。来春発売予定。



スポーツレジャーの新しい分野をひらく注目  
のエンデュロ「XT500」。来春発売予定。



すべてに新しい技術を注いだヤマハロードス  
ターの最上級車「GX750」。来春発売予定。

# すぐれた技術、すぐれたナビ

健全なスポーツレジャー、安全



いま根づよく育つトライアル界に旋風をまき起すべく登場の「TY175」。来春発売予定。



中型二輪の雄はフルサイズの400cc車ニュー「RD400」。250も新型で、来春発売予定。



カフェレーサー風のラんだ個性派商品「GXR」。

# ベスコ/ヤマハ、世紀の大記録!! 302.928マイル/時達成

アメリカ・ユタ州・ソルトレイク



モーターサイクル（2輪車）による絶対速度記録更新に向けて全力疾走の“シルバーバード”。最初の往復でまずA M Aの記録を更新、次いで1時間以内に再度ランしてF I Mの記録も破った。間もなく公認されよう。



制動！ 小型飛行機なみのスピードを減速するには2個のパラシュードが用いられた。このあと十分に減速されてから車輪ブレーキが使われる。

ヤマハ技術の驚異のエンジン性能が、またまた国際的な槍舞台で、華やかなフライトを浴びました。

不屈のスピードマシン、ドン・ベスコがアメリカ・ユタ州ボンネビルソルトフラットで達成した302・928マイル/時（487・411km/h）は、モーターサイクルによる史上初のオーバーサリートの大記録となりましたが、現地からの詳細は、世界一速い男・ベスコ。そして、世界一速い確実なエンジン・ヤマハの、スリルあふれる世界記録挑戦の模様を次ページのように伝えています。



昨年、TZ700cc 2基装備のマシンで1マイル往復平均時速281・702マイルをマークしながら、復路でエンジン連結のゴムベルトを交換したことがルール違反とされてFIM公認のワールドレコードを逸したドン・ベスコは、次の機会を必ず300マイル/時をオーバーすることを明言していた。

これは、スピード挑戦二十年の実績と、過去における数々の大記録に裏付けされる自信満々の公約として受けとられていた。

## 八月末に小手調べ

全長21フィート(6・4m)、重量900(408kg)ポンドの「シルバーバード」(TZ700cc 2基)をひっさげたD・ベスコチームが今年初めてソルト・フラットに現れたのは8月末のことであった。

しかしこのイニシアル・ランは豪雨と強風という最悪の天候条件下で実施されたため、記録には見るべきものがなかった。

時速270マイルで、突風に見舞われ、あわや転倒という場面も見られたが、タイムリミットをギリギリまで延ばしたベスコの好ハングドリングによってこの危機は免れた。

## 愛妻ノーマが激励!

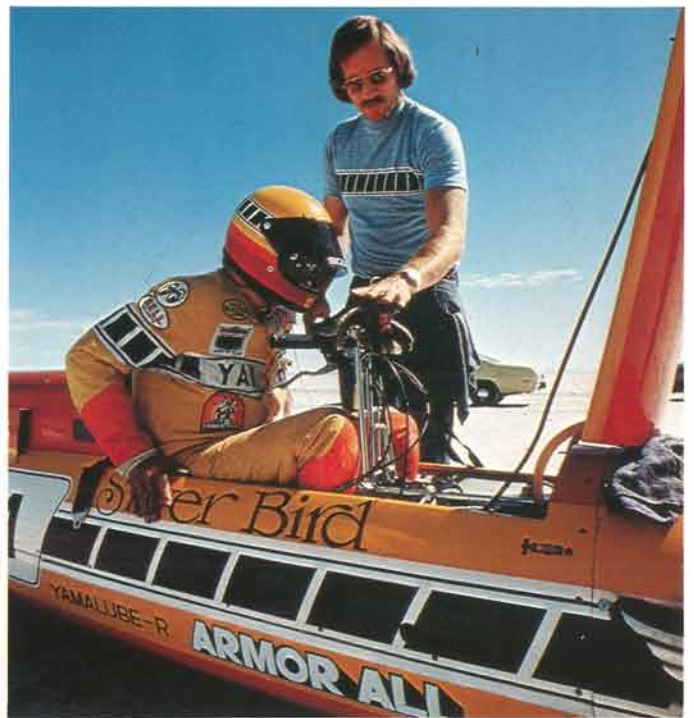
最初のチャレンジから約1カ月後の九月二十五日、再度の、そして今年最後のチャンスが訪れた。

好天に恵まれて、塩湖のコース状況はまず申し分なく、記録挑戦車「シルバーバード」の整備も完全であった。

ドン・ベスコチームは合計4名で、それに今月はベスコの愛妻ノーマが加わっていた。ベテラン、ベスコにとっても夫人の存在は少



▶時速487・411kmをマークした「シルバーバード」。全長6・40m、重量408kg。ソルトフラット(塩湖)は文字どおり一面が塩。ここにフラットの状況は一年で秋がもっとも安定しており、この時を選んで世界最高の速度記録挑戦会が開かれる。



▲「シルバーバード」のcockpitに入るベスコ。腰をおろし、足を伸ばし、身体を前方にスライドさせ、ハンドルバーを手前にひいて、仰向けの姿勢となつての操縦である。

◀TZ700ccのエンジンから、TZ750ccエンジンへの換装、そしてチューンと、困難な作業を手際よくすすめるベスコ・チームのメカニックたち、左端がスピードの王者ベスコ氏。



スピードキング、ドン・ベスコと「シルバーバード」。全高の低さから、どのようなライディングフォームがとられるかが容易に想像されるところだ。おめでとう、ドン・ベスコ。

ベスコにとっては、オーバースリートン以外の記録はなんの意味もなかったのだ。

## TZ750ccで大記録達成!

九月二十七日、ソルトレイクの空はみごとに晴れ、雲一つ見あたらなかった。気温も上昇して約85度F。

2日間の体験がもたらした貴重なデータにより、ベスコはTZ700ccに替えて、世界の最強力エンジンTZ750ccを初めて、シルバーバードに装備した。きょうこそは「絶対やる」の強烈な意欲をみせたのである。世紀の大記録達成を期待して見守る観衆は数十名。

午前十一時一分、ソルト・フラットを北から南へ向うワンマイルのランが開始された。このときのスピードは304・645マイル/時(490・265km/h)。さらに、十二時五十八分にスタートした復路ランは、302・979マイル/時でカバーされた。

なからず精神的な支えになったことは間違いない。

二十五、二十六の両日、300マイル/時の壁突破の公約達成を目指すベスコのタフな挑戦が続いたが、二十六日には記録が299・49マイル/時にアップ、300マイルにあとひといきと迫った。

このチャレンジに立ち会ったのは、AMA(アメリカンモーターサイクル協会)の公式タイムキーパーE・フランダーズであったが、ベスコを評して次のように語った。

「私は20年間タイム・キーパーをやっているが、ベスコほどクールなチャレンジヤーはかつて無かった」

の間、高速時の遠心力によってタイヤがぼう張、マシン内側にドラグし、側面からの風圧も加わってかなり危険な状態になったが、ベスコのマシン操作は完璧で、みごとにこれを乗り切り、302・877マイル/時の記録をマークした。

平均時速302・928マイル/時!

## TR、TZについて三度目

記録は破られるためにあるとは言うもののスピード男ベスコは驚異の存在だ。

もの静かな口調で話すこの36才のスーパーマンが、スピードにとりつかれたのは16才の時だと言われている。

当時夢だと思われていたモーターサイクルによる250マイル/時の壁への挑戦が少年ベスコの初目標になった。

この目標は、それから15年後の1970年に達成された。

このときのマシンはTR2、350ccエンジン2基装備のストリームライナーだった。

このレコードは、間もなくC・レイボーン(Harley 1500cc)によって更新された

が、ベスコは次の目標を300マイルに絞り、強力なTZ700ccエンジンを得て、昨秋281・714マイル/時の新記録を出したことは既報の通りだ。

今年、待望の300マイル/時オーバーの世紀の大記録を樹立したベスコは、競技終了直後、持ちまえたものやわらかな口調で、次のように語った。

## 次の目標? 勿論400マイルだ

「ワンウエーだけなら、オーバースリートンも決して難事ではない。問題は常に復路ランにあった。」

九月末のソルト・フラットの条件は、まず上々だった。

最初の二日間は、まず小手調べといったところで、マシン各部の調整に特に気を配ったが、前後のスケジュールも19-24から19-26にし、ギヤ比も再三変更して高目にもっていった。

今年の「シルバーバード」の各部レイアウトでは、排気管のまとめ方が悩みの種だった。

8本のパイプのそれぞれが、3インチ半以上もあり、その中の6本を身体の下にするレイアウト方法をとらなければならなかった。

タイヤは72年製のグッドイヤーで、まずまづの性能を保っていたが、最後のランで危うくバーストするところだった。

燃料は通常のガソリンで、ガロンあたり70セントと安上りだった。

フォーミュラワンレーサーと同じサスペンションシステムをつけた「シルバーバード」のハンドリングは、風さえなければ満点と言えるが、競技中は側方からの風がやや強く、一時間以内に2回のランを行うことはかなりハードだった。

幸い、心配した復路ランのスピードも300マイル/時をオーバー、私の多年の夢がかなえられたわけだが、「シルバーバード」のマキシマムスピードがどのくらいかは、私にもわからない。

このマシンの制作に注ぎ込んだ費用は、私の費した時間も金に換算して加えると、合計で約8万ドルだ。

しかし、時間の方は私の道楽と考えて、金には換算しないことにしている。

私の次の目標?

もちろん400マイル/時だ。

「シルバーバード」で挑戦するか、また新しいマシンを作るかは今のところきめていない。

# お店は お客さまのバイクのホームドクターです

そつせんして

## 定期点検の実施を、ご案内ください 自賠責保険の更新にもいいチャンスです

### ●技術と信頼を添えて

より大きな楽しみを広げる足として、ヤマハのバイクがお客さまの生活で重要な役割を果たすには、第一にお客さまのバイクへの信頼に他なりません。いつでも安心して乗っていただけるバイクこそ、お客さまに最も愛されるバイクといえるでしょう。

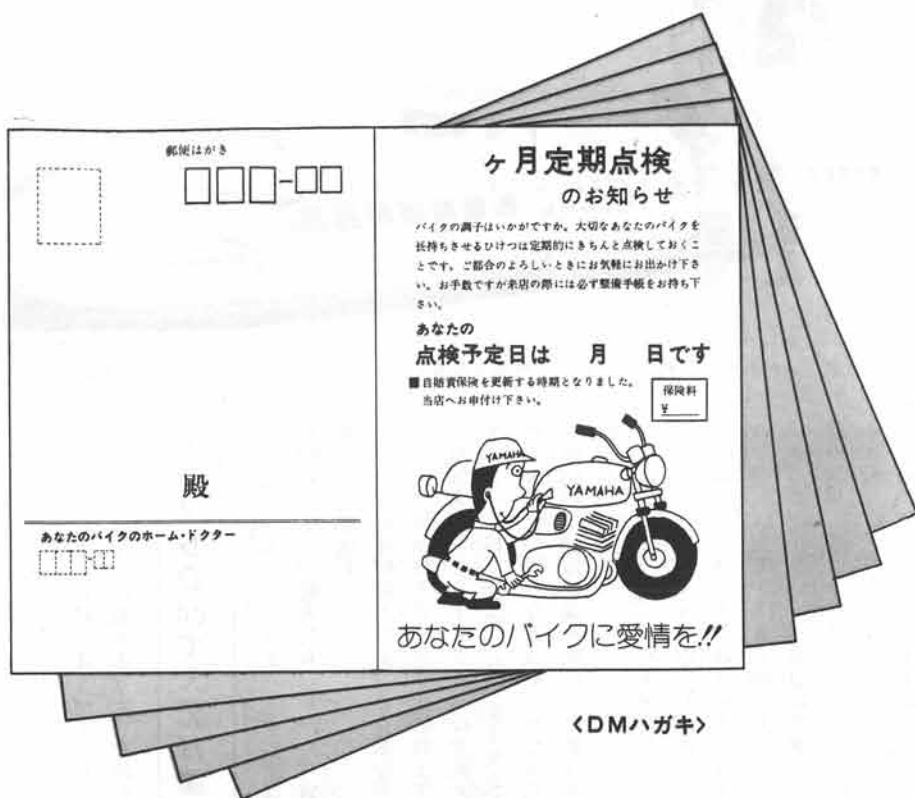
そこで、いつまでも新車同様に、安全に経済的にバイクを使っていただくためには、定期的な点検整備が行なわれなくてはなりません。定期点検整備は、法定の点検だからということだけではなく、安全上欠かすことのできない大切な点検です。

定期点検整備で故障を未然に防止することにより、お客さまは安心してバイクにお乗りいただくことができます。バイクの健康管理、それは定期点検整備の励行からです。

ヤマハフレンド店は、お客さまのバイクのホームドクターです。お店の豊富な商品群に、〈技術と信頼〉を添えて、お客さまに販売しましょう。

### ●安心と信用の確立を

定期点検整備とは、お客さまのバイクを、取扱説明書に記載されている定期点検カードにしたがい、販売店の皆さまがお客さまに代つ



〈DMハガキ〉



## ○ 仕業点検項目

前後フラッシャーランプ  
点灯の確認  
前後ブレーキ作動及  
び点灯確認

フロントフォークの  
作動

前後スポークの弛み

バックミラーの写  
影の状況

メーターの作動

ハンドルの著しい  
遊び及び操作具合

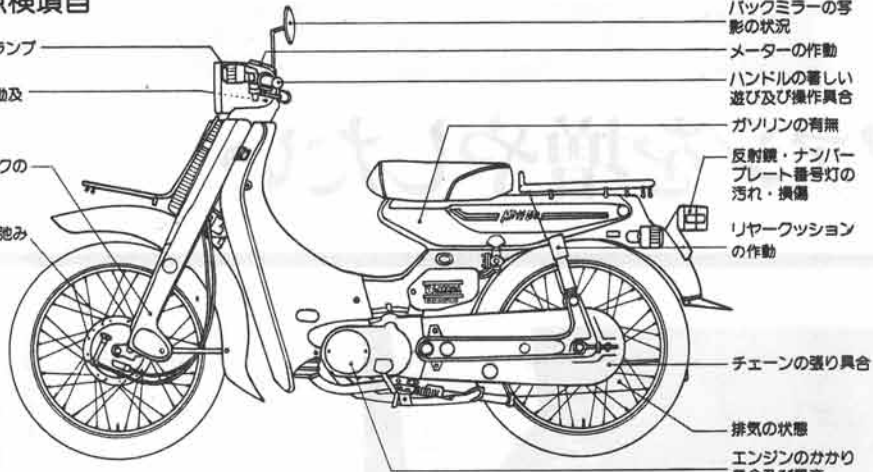
ガソリンの有無

反射鏡・ナンバー  
プレート・番号灯の  
汚れ・損傷

リヤクッションの  
作動

チェーンの張り具合

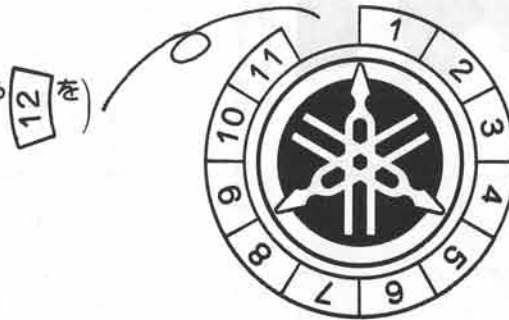
排気の状態  
エンジンのかかり  
具合及び異音



定期点検の項については取扱説明書に記載されているカードにしたがいますが、一日一回お客さまが乗りだす前に行う仕業点検について異状の有無も話合いたいものです。

※ その他前日の運行で異常が認められた箇所

(12月に販売した車はステッカーから「12」を切り取り貼付ける。



〈販売月表示ステッカー〉



て点検を実施するものです。

定期点検整備には、初回、6カ月、12カ月の3種類があります。この定期点検整備を励行することは、お客さまのバイクの安全性を保つことだけでなく、いままで以上にお客さまとのコミュニケーションを作り上げることにもなります。お客さまに喜ばれ、なおかつ信頼を受けるまたとないチャンスでもある訳です。

## ● 定期点検の進め方

有効的な定期点検を進めるにあたり、ここでいくつかの例をあげてみましょう。しかしここにあげるのは「一例」にすぎませんので、販売店の皆さまは独自に最良の方法を考えて実施してください。

### 〈点検案内ハガキ〉

販売後、定期点検整備の時期が近づいたら、お客さまに点検の必要性を説明したD・Mハガキに点検案内を含めて、お客さまに郵送し点検の必要性を知らせます。D・Mハガキには、最少限必要な代金(オイル・消耗品代)等の案内を記入すると、お客さまも安心して点検を受けられるでしょう。また、併せて自賠責保険更新の案内も必要です。

### 〈販売月表示ステッカー〉

お客さまへ新車をお渡しする時、または定期点検を実施した時に、ステッカーの外側の数字(販売した月)を取除いてから貼ります。販売店の皆さまだけでなく、お客さまにとってもその後の定期点検整備を実施する時期および保証期限が、たいへん分かりやすくなります。

★ ★ ★

その他、定期点検の実施回数によりお客さまに直接的なサービス(無償点検等)を行なうことや、点数制の物品交換制度を設け、規定点数に達すればオートバイに関連した用品と交換できるなど、種々のアイデアでお客さまに訴える方法も考えられます。こうしたアイデアは担当のヤマハマンもお店といっしょになって考えます。どうぞ、ご相談ください。

なおDMハガキ、ステッカーについては担当のヤマハマンにお申付けください。

モータースポーツの真ずいを語る金谷秀夫選手

# レースファンを増やしたい



「お客さまとの話題をつくるモータースポーツ情報」としてほぼ一年近くにわたってお知らせしてきましたように、今年の主なモータースポーツイベントも、国内のトライアルを除いて殆んど終了しました。そしてヤマハ車勢は海外においてデイトナで、SSDTで、また世界GPロードレース/モトクロスで数々の輝かしい勝利を飾り、国内においてもモトクロスでは杉尾良文、東福寺保雄の両選手がまたロードレースでは江崎正、石井康男両選手がそれぞれ各クラスにおいて最優秀選手賞を獲得するなど大活躍を続けてきました。

今年に入ってから世界の舞台にもすっかり慣れ、5月4日、オーストリーの世界GPでは500cc級と350cc級で日本人初のダブルウィナーになったのをはじめ、500cc級では2位、3位、4位に1回ずつ入ったのです。そして世界GPシリーズの途中で帰国するまで、500cc級のランキングのトップに立っており、最終的にもアゴスチーニ、リードに続いて堂々3位の成績をおさめたのです。

マシンに対する絶対的な信頼があつてはじめて見応えのあるいいレースもできれば、素晴らしい記録も生れる。2分16秒2のラップ新記録を報じた本誌に目を通す金谷秀夫。

また国内においては、前号で紹介しましたように、2分16秒2というまさに驚異的な記録でスズカの日本GPを制覇したのです。編集部は、日本GP後間もない10月27日、インドネシアとマカオのレースに出場のため東京・羽田の東急ホテルに投宿していた出発直前の金谷選手にインタビューして、お店のみならずマシンにも興味ぶかいモータースポーツの真髄を語ってもらいました。(文中敬称略)

## マシンへの信頼感が記録更新のチャンスをつくる

——スズカでの大記録樹立おめでとう。いかがですか、今から振り返って考えてみたあの記録は。

金谷 あれ以来いろいろな人から大変な記録だとか、よくやったなどといういろいろ言われますけど、「20秒の壁」というのはある程度天候に恵まればやぶる自信は十分ありました。それだけヤマハの技術力はアップしていったから。ほくはYZR500でしたけれど、TZR750で出た片山敬済君も18秒1を出していますからね。

——すると、あの大記録も来年には更新出来るということですか。

金谷 ええ、その自信は十分あります。ほくが出来なくてもヤマハにはいい若い選手が続々育ってきていますから。

——そういった自信はどこから生まれてくるものなんだろう。自分自身の努力はもちろんですが、その他には。

金谷 やはりなんといっても大事なのは、自分の乗るマシンに対する絶対的とも言える信頼感でしょうね。これがなくては走るといふことなんか出来ないですから。そういう意味でも、最高のマシンを信頼して乗れるのは幸せだと思っていますね、記録とか優勝とかの前に。

——時速300km近いスピードから一気に100km位に落として第一コーナーにつくむ時は、まさに衝撃的でしょうね。

金谷 200m足らずの間に時速150km以上減速するわけですから相当マシンにも負担がかかるわけですけど、そんな時こそマシンへの信頼感が重要です。あとは自分自身の問題ですから、うまくまとめようということに

# 見応えのあるレース展開で 一人でも多くのモータースポ



神経を集中させるわけです。

## 見応えあるレース展開

### それがスポーツファンをつくる

——最近では世界GPなどの出場場で国内で走ることがあまりないのですが、久しぶりに日本で走った感想はいかがですか。

金谷 ぼくは3年前からヨーロッパなどに行っているのですが、その当時に較べると日本のモータースポーツもいろんな面でとてもいいムードになってきていると思います。

例えばレースの運営やお客さんの反応とかの面でね。それは世界GPなんかと比較すればまだ物足りない所はありますけど、以前よりずっとよくなっていることは確かです。これはお店のみなさまと共に喜びたいですね。

そうしたムードに込める意味でもぼく達はお客さんにとって常に見ごたえのあるレースをしなければならぬと思っています。そういう意欲を持ってレースをするのがぼくの仕事だと考えるんです。そしてそのことが今後のモータースポーツの興隆のためになればとね。その意味でこの前の記録が少しでもお客さんにアピール出来たらうれしいですね。だから反面、決勝の日の雨は本当に残念でしたね。晴れてみんなが出られたらきっと素晴らしいレースが出来たと思うんです。

——金谷さんのいま言われた見ごたえのあるレースをしようということでは、今の若い選手諸君はどうですか。

金谷 そうですね、彼等は彼等なりに一所懸命やっていますよ。けどまだなんとなく物足りないですね。ぼくの場合も先輩の三室さん達からよく「見せ場を作れ」と言われてた位であまり大きなことは言えませんが、少なくともセニアになったら見応えのあるレースを展開する、そういう自覚は持つてほしいですね。そしてもっともつとお互いにいい意

味で刺激しあうようにしてほしいですね。それがお互いの腕を上達させる一番の方法ですから。そしてチャンスをつくって世界GPなんかにももっと多くの日本人ライダーが出来るようにしたいですね。テクニクスの面で日本の若い選手は、外人に決してひけをとらないものを持つてる人が多勢いますから。

## グッドバイ・カナヤ

### ランキング一位で帰国

——そこで世界GPの話をお聞きしたいのですが、一番印象に残っているのはやはりオーストリーでのダブル優勝ですか。

金谷 ええ、そうですね。あそのザルツブルクリンクというコースは、フランスのポルリカールと並んでもとほくの好きなコースでした。それに500ccの場合は、アゴスチーニのリタイヤというぼくにとってはラッキーな面もありましたね。

——その時はどんな状態でしたか。

金谷 第一戦のフランスではアゴとぼくが1位、2位でヤマハチームの完勝だったんです。オーストリーでもレース中盤過ぎまではその調子で進んでこれもぼく達のものだと思ってたんですが、ひとつのコーナーにさしかかったらコース役員が、さかんに「GO」のサインを出します。これはおかしいと思いがらそのコーナーを回るとアゴがリタイヤしてたんです。

一瞬これはまずいなと思いました。すぐ後には強敵のランシボリー（スズキ）とリード（MV）が追って来ているから。ヤマハチームとしては負けられませんか。でもなんとか勝ててよかったです。

——500ccではこの他にフランスで2位西ドイツで4位、イタリアで3位に入って帰国される時点ではランキングのトップに立っていたわけですが、向こうのジャーナリス

ムの反応はいかがでしたか。

金谷 ええ、ずいぶん騒いでくれましたね。帰る時にはイギリスの「モーター・サイクル・ニュース」という新聞では「Good by Kanaya」なんて見出しをつけて大きく扱ってくれました。やはりとても喜しかったなあ。

## ふだんはチャピイを愛用

### バイクライフを楽しんでいます

——そうして文字通り「世界の金谷」になられたわけですが、神戸の自宅に帰られてからの「一人の人間」に戻った場合、金谷さんはバイクには乗りませんか。

金谷 いえそんなことありません。ライダーという立場を離れた時には、一人の人間として「バイクのある生活」を楽しんでいます。うちの近所でのちよい乗りにはもっぱらチャピイを愛用していますし、六甲のドライプウェイなんかにはTX500でツーリングに出かけることもあります。

——普段レースなんかでどのようなビッグマシンを自在に操っている金谷さんがチャピイに乗るといのはとてもほほえましいんですけど、大きいのと比較した場合どうですか。

金谷 うーん、ちょっと比較しようがないですね。小さいバイクだつて大きいものに負けない楽しさ、魅力がありますから。その意味では最近日本で盛んになっているレジャーバイク運動会なんてとてもいい傾向だと思えますよ。見ているのも楽しいですよ。オートバイの販売店さんが中心になってよくやっていますけど、もっともつと多くの人が参加するようになると思います。

——出発前のお忙がしい所どうもありがとうございます。ありがとうございました。それではインドネシア、マカオで頑張ってください。それから来年も。

金谷 ありがとうございます。来年もきつとやります。販売店のみなさまにもよろしく。

# MOTOR SPORTS HIGHLIGHT

お客さまとの話題をつくるモータースポーツ情報

## ダークホース齋藤茂憲が初優勝 ベストクリーンは近藤博志

●全日本トリアル選手権第6戦岡崎大会



夏の間にめっきり腕を上げたBPの齋藤茂憲

5月11日に第5戦を終了してから約4カ月の中休みをとった全日本トリアル選手権シリーズは、9月28日に愛知県岡崎市の石切り場を舞台に、第6戦が行われた。この第6戦は、夏の間の各選手の精進ぶりや第2戦以来の出場となるゼツケン1番の近藤博志のカムバックぶりが注目された。結果的には第5戦までのポイントランキングで10位以内になかったダークホース齋藤茂憲がベストパフォーマンス、エキスパートと同じセクションで争われたがジュニア(中部選手権)の上位選手の成績がエキスパートを上まわるとい

う波乱に富んだ競技会になった。なお、近藤は実力を発揮してベストクリーンを獲得した。会場は石切り場だけに、切り立った崖や角のどがった大きな岩の点在するコース。セクションは午前と午後15セクションずつ、エキスパートだけ最後に4つのスペシャルセクションが課せられた。出場者はジュニア、ノビスを入れて13人の多くを数えた。TY250で出場の齋藤は、午前の部で第5セクションで5ポイントのミスをした他

## 近藤・TYコンビの快勝 ベストクリーンも文句なし

●全日本トリアル選手権第7戦和歌山大会

全8戦を組んで行われて来た全日本トリアル選手権シリーズも第7戦までを消化した。和歌山大会は、美しい紀の川の川原を舞台におだやかな小春日和、絶好のトリアル日和のもとで10月26日に、エキスパート、ジュニアの計68選手が参加して行われた。この第7戦でもTY250、TY125に乗るヤマハ勢は小気味のいいライディングを見せてくれた。中でも久しぶりに第6戦に参加、ベストクリーンを獲得した近藤は、いよいよその実力をいかに発揮し、愛車TY250の性能を十二分に引き出して第1戦以来久々の勝

は4つのセクションで1ポイントずつの計9ポイントロスで切り抜けた。これに対して第5戦まで3勝を上げていた加藤文博(カワサキ)は11失点、近藤が12失点と続き、午後の競技でのトップ争いに興味を持たれた。しかし午後になってからの齋藤は増々調子を上げ、スペシャルセクションの前までに近藤に計7ポイント、加藤に8ポイントの差をつけ、大勢を決して見事な初優勝を飾った。近藤はスペシャルセクションで加藤に1点差の逆点負けを喫して3位に甘んじたものの、さすがに実力を発揮してベストクリーン賞を獲得した。なお、今年のSSDTで大健闘した木村治男は、遠征の疲れが抜けきれていないのか午前の不調がたたって第5位に終わった。しかしながら午後になってからは、スペシャルセクションをも含めて5失点(午後の部の最少失点)で切り抜けたのはさすがであった。

利をものにし、合わせてベストクリーンも獲得するという文句なしの快勝であった。会場は紀の川に沿って走る国鉄和歌山線名手駅から車で5分位の紀の川の川原。付近にはミカン畑が点在し、また川岸のそこそこには釣りを楽しむ人々の姿も見られるというのどかな田園風景が広がる。コースは紀の川の中州状になった川原の小高い丘に10セクションが設けられ、これに各選手が午前、午後それぞれ2ヒートずつを争い、さらにエキスパートには最後に3つのスペシャルセクションが課せられた。



持ち前のファイトで難所を征服する近藤博志

数日前に左手の人差し指にケガをし、また2週間前からカゼを引いて満足な練習をしていないという近藤は、中指一本でのアクセル操作に苦勞しながらも全く安定したライディングを見せてくれた。午前の第1ヒートでライバル加藤文博(カワサキ)に2ポイントの差をつけた近藤は第2ヒートでも快調に飛ばし、午前を終えた時点で2位の加藤に早くも11ポイントの差をつけた。そして午後の2ヒートでもその差をいっそう大きく開いた。特に他の誰れもがクリーン出来なかったスペシャルの第2セクションを、気合十分のトリアルで完全に征服し、静かに見守っていた多勢のファンから盛大な賞賛の拍手が送られた。新鋭畑山和裕(ヤマハ)は加藤に続き3位。4位には第6戦でも4位の、三谷正次(ヤマハ)が入って進境著しい所を見せ、TY125の大月信和は堅実なライディングで5位になった。

# お店の看板のつもろびです

\*嬉しいのは女性客が増えたこと\*

松戸 文子さん(松戸モーターサイクル・松戸紀夫氏夫人)



# ヤマハ 奥は

▶ 笑顔を絶やさない文子さん。この明るさが多くのお客さまをお店に呼ぶ



十七年ほど前、当時の50ccバイクに乗り、のちにご主人となつた紀夫さんたち男性グループが、大型車で「遠乗り」に出かけるのを眺めては、「いつかは、自分も一緒に……」と夢みながらこれを見送っていた文子さん。

◀ 20年近いバイク歴、文子さんの現在の愛車はTX500。PR効果など、文子さんが大型バイクに乗ることによって生じるプラスは大きい

今では、その夢も実現し、TX500を颯々と駆って仕事に向う、明るく活発な「ヤマハ奥さま」です。

「男に生まれれば良かったのに、とよくひとにいわれますが、ほんとうにそうなんです。若いころからバイクが好きで、機械ものを見るのが好きでした。いつも体を動かして何かをしていないとダメなんです、私って。おとなしくジツとしているのは苦手なんです。お客さまに『そのわりに肥っているのはおかしい……』っていわれるんですが、どうしてでしょうね。困っちゃうわ」

表情豊かに、明るい性格がそのまま伝わってくるように話しはじめた文子さんは、

「わたしがかがけていることは、愚痴はいわないこと。それは、たまにはいやなこと、つらいこともあります。が、いったんお店へ出たら、笑顔で明るくお客さまに接するようにしています。おみかけどうり、あまりすましていられない方ですから。若いお客さんには、ホンボンといたいことをいってやっていきます。でもそれがかえって親近感を生んでいるように、『おばさん居る!?』って入ってくる人も多いです。わたしの内助の功といったら、そんなことじゃないですか。そう、もうひとつもつと具体的なことがあるわ。うちは女性客も多いんですが、これは、わたしが大型バイクに乗っているせいだと思います。バイクは必要だけど、危なそうだからと尻こみしてい



た近くの奥さまたちが、わたしに乗っているのを見て、小さなバイクなら自分でも乗れそう、とチャビイなどを買いにきてくれます。子供さんたちがバイクを欲しがったときも、女性でもあんなに大きなバイクに乗っているんだから、と親ごさんたちの安心感がちがうようです。

販売店の奥さんの仕事といったら、普通は帳簿づけなどが主なんでしょうが、わたしは全然ダメ、主人がやっています。その代わりに部品の買い入れに行ったり、集金など外廻りの仕事をします。オーバーホールはまだできませんが、大抵の修理なら主人がいなくてもできます。家事はいつもお田さんがしてく

「便利さはもちろん、最近、バイクに乗ること自体が楽しくなりました。こんなことから、もつと早くに免許をとり、若い頃から乗っていたらよかったですと後悔しています。」



## 乗ってみて はじめてわかりました バイクの便利さ 楽しさ

小原 初江さん

埼玉県大宮市桜木町2の279

てくれますので安心してお店の仕事が思いきりできるのは幸せです。そんな意味でも田にはいつも感謝しています。わたしは田とあまりにも仲がいいし、また、カカアテンカのところもあるのかしら、お客さまが、うちのひとを「お嬢さんですか」なんて聞くことがあります。強そうなことをいっても、それはやはり主人がいなければどうにもなりません。ですから、たてる場所ではちゃんと主人をたてていますよ。ね」

文字さんは、かたわらでこれを聞いていたご主人に同意をもとめ、さらに

「毎日忙しいのですが、苦にならないのは、私がバイクが好きで、この仕事が好きだから

通勤時間の短縮で、家族のものからは喜ばれ、おつくだつた買いものも楽しくなりました。今では、わたくしにとつて、バイクは欠かすことができぬものとなりました」

だと思えます。うちのひとが居て、バイクがあつて、元氣にお店の仕事ができるかぎり、楽しい毎日が送れそうです。

子供は男の子が二人います。小さいころはもつとかまつてあげる時間があれば、とふびんに思つたこともありましたが、もう、高校生と中学生になりました。上の子はすでに70ccに乗っていますし、下の子も再来年には免許がとれます。そして、一週間くらいかけて、一家揃つて四台でツーリングをしたい、というのがわたしの夢なんです。もちろんその時は、お客さまにはあらかじめちゃんと予告をして、休業をお願いして出かけますが……」

千葉県千葉市八作町218

埼玉県大宮市にお住まいの主婦、小原初江さんがバイクに乗るようになったのは三年ほど前で、三人のお子さんも大きくなり、家で遊んでいてはもつたいたい、浦和市の電電公社につとめ、電話交換手の仕事をするようになった、しばらくしてからでした。

「準社員ということで、わたしの勤務時間は夕方の五時半から、夜の十時までなんです。出勤前は、ギリギリまで家事をしていたいし、帰りは、家族が待っていますので、たとえ十分でも十五分でも早く帰りたいわけです。」

以前は電車で通っていました。主人が、電車よりバイクにした方が早い、というのでバイクでの通勤を考えていたところ、タイムンクよく、原付免許教室開催のチラシが舞い込みました。いい年をしていますから、という気持ちもありましたが、思いきつて教室に参加し、試験は一回で合格しました。

主人がメイトに乗っていましたので、乗り方を教わりましたが、思っていたほどむずかしいものではなく、わたしでも乗れると自信ができました。そこで、主人からメイトをゆ



出勤前、スーパーマーケットで買いものをするのが小原さんの日課。  
「チャビィにしてから買いものに行くのが楽しくなりました」

ずってもらい、これで通うようになりました。このメイトはギヤ付きてしたが、これに二年乗り、チャビィに替えたのは今年の四月からです」

小原さんは、小さいころ患った病気がもとで、足が少し不自由なため、バイクに乗る前は、あまり出歩かなかつたそうですが、メイトやチャビィに乗るようになってからは、行動範囲もぐんと広がりました。

「夕方の出勤前までに、スーパーマーケットで買いものを済ませますが、新聞で、ほかの店より安いスーパーマーケットの宣伝をみ

つけると、そこまで買いに出かけるんです。バイクに乗るまでは考えられないことでしたが、今ではそれが楽しみのひとつにもなっているんです。友人から電話があつて、遊びにこないかと誘われたときも、バイクで簡単に行けますので、面倒でなくなりました。」

メイトを乗りはじめたころは、利便性を強く感じましたが、チャビィにしてからは、利きともにも、バイクに乗って外へ出ること自体が楽しくなりました」

乗りたてのころは、初歩的な知識がなかつたために、故障でもないのに、故障したと思

い、あわてたこともあるという小原さん。今では、メカに關してもだいたい分かる様子。腕前の方も、激しく車の行きかう国道17号線を、ほとんどこわさを感じないで走れるというほどの上達ぶりです。

「わたしでも、乗れるのですから、自転車よりも安定性のよいチャビィなら、だれでも乗れるはずですよ。利き、楽しさは、実際に乗ってみないとわかりにくいと思いますので、販売店さんが、もつと積極的に乗り方を教えてあげれば、バイクに乗る女性はもつとも増えるのではないのでしょうか」



「ゆとりの冬へスタンバイ」——初めてお目にかかる方も多いかと思いますがこれは雪国の地方、すなわちヤマハスノーモビル、小型除雪機トロを扱っています地区で行われた予約セールキャンペーンのカーステッカーです。11月30日をもって終了となりましたが、キャンペーンに参加したお店のみなさまの成果はいかがだったでしょう。また今号でもお願いですが、みなさまからの楽しい役立つニュースのご連絡と共に、本誌に対するご要望、ご質問、ご相談ほかをお待ちしています。ニュースバリューのあるご用件には編集部が直行します。☎05388(2)1111・内線355です。



各自愛用のマシンをたずさえてのビッグマシン・セフティライディング講習会

**ビッグマシン愛用者対象  
セフティライディング講習会  
(菅生)**

(仙台支店) すでに大型二輪の免許を持っている人を対象に、基本的な正しい乗り方を学ぶ講習会が十月二十六日、スポーツランド菅生において行われました。

これは菅生ブレイガイド店/マコトレジャールハウス、大友輪業、仙台パドックのフレンド店さんの共催で、これに宮城県警の白バイ隊および仙台支店の鈴木年貞、大場弘志二輪

車安全運転特別指導員が協力、映画および座学のと、カートコースにて乗車姿勢、制動など基本テクニックを講習、ロードコースに移ってカーブを含む高速走行のテクニックを研修しました。

こうした講習会は今回が初めてですが、参



高速走行テクニックの研修で、ロードレースコースに出る受講者

## 部品部からのお知らせ

今回は新型ヘルメットを三種類ご紹介いたします。子供用のもの二種類、大人用普及型です。どうぞよろしく。



豆ヘル①



豆ヘル②

### 豆ヘル

標準小売り価格 1,500円

ポリカーボネイト製の子供用ヘルメットで、その名も「豆ヘル」。ご覧のようにツバのかたちで二つの種類があります。サイズはどちらも54cm。小学二年程度です。

品番 90890-51186 (豆ヘル①男子用)  
90890-51187 (豆ヘル②女子用)



### ヤマハヘルメット AS-3

標準小売り価格 3,000円

FRP製、S・SGマーク付ヘルメットの普及型で、帽体はビニールレザーを覆ったものです。色は白とベージュの2種類。

品番 90890-51184 (白)  
90890-51185 (ベージュ)

加した二十名のライダーは「ビッグマシンに乗っているが、やはり我流のテクニックで通していることがある。きょうは非常に有意義な講習会であった」と感想を述べていました。なお、これからもこうした講習会は機会のあることに開催したいというのは主催者側のフレンド店さんの言葉でした。(大場)

## 第一カートランド三重 オープンングカート フェスティバル

(名古屋支店) TYシリーズによるトライアルの普及と同様、カートもヤマハ・レッドアローの発売以来全国的にその人気が急上昇し



# NEWS TOPICS



ています。東海地方もその例にもれませんが、三重県にある第一自動車さんは、地元のカートファンの期待に応えるべく、この程三重県津市にカート専門コース「第一カートランド三重」を完成しました。そしてそのオープニングを飾るカートフェスティバルが10月19日に盛大に行われました。

このカートランドは、数年前に出来たトレイルランドを改造したもので、コース全長650m、幅員8m、最長直線1255mという本格的なもの。場所も国道1号線に近い所で、三方を小高い丘に、もう一方をきれいな、かなり大きい池に囲まれたなかなかの環境にあります。

当日は朝8時の受付前には、夜来の雨もすっかり上がり、気持ちよく晴れわたった秋空には、オープンを祝うアドバルーンがいくつも上げられ、雰囲気も上々。地元三重県を始めとして、愛知、京都、大阪などから集まった101名のカーター達は、それぞれの愛用マシンで、この本格的カート専用コースを思うぞんぶん走り回っていました。なおこの101名という参加者は西日本におけるカートレースでの最高のもので、これからのこの地方におけるカートの人気具合もうかがえようというものです。(西山)

## 大盛況！ 高井、河崎選手のサイン会

(名古屋北営業所) 日本のロードレースのト



ップライターとして、ヤマハを駆って海外でも大活躍を続けている河崎祐之、高井幾次郎両選手のサイン会が、10月19日に名古屋のオリエント中村屋ヶ岡店で行われました。

河崎選手は今年のデイトナ200マイルレースで、世界の強豪を相手に堂々6位に入賞また高井選手は世界GP第1戦(フランス)の250ccクラスでジョニー・セコットと大接戦を演じ、第2位に入ったのはまだ記憶に新しい所です。

このサイン会は同店の開店一周年記念にタイミングを合わせ、ヤマハとモータースポーツのイメージアップを目的としたものです。当日は、日曜日のこと、店内は家族づれでいっぱい。サイン会の会場となったスポーツ用品売場は特に若者達が押すな押すなの大盛況でした。河崎、高井両選手とも地元の人だけに友人や知り合いの人も多数見え、2時間あまりの間に約500人の人達がサインを求めて両選手共筆を休める暇もない程の盛況ぶりでした。今までモータースポーツに関心のない人が興味深げに両選手に話を聞いているのが特に印象的でした。(松永)

## 新刊紹介

深まる秋の燈の下、また初冬の暖をとる炬燵の中で格好の読物として新刊書を二冊ご案内いたします。

### 「モトクロス教室テキスト」

岩尾 一敏著

モトクロスの初歩から応用テクニックまですぐに役立つ実戦派向きの内容でまとめた新しい「モトクロス教室テキスト」が出来あがりました。

著者はご存知第一線のセニアとして堅実な活躍をつづけている岩尾一敏選手で、豊富な実戦経験をもとに書きおろしたその内容は、「S」モトクロス教室テキスト」としてはもとより読物としてもユニークなもので、バイク関係者はモトクロスにかわりなく必読の書といえます。

基礎知識編、基本テクニック編、応用テクニック編のほかモトクロス練習法、レース作戦などについてもつづこんだ解説があり、モトクロスを見る目を高めるうえから多

くの人に読んでいただきささいものです。

B5判、三二ページ、領価五〇〇円。送料一〇〇円。お申込みは担当のヤマハマン、または支店営業所普及係、ヤマハ発動機株式会社営業普及係(〒438 静岡県磐田市新井二五〇〇)まで。

### 「女ライダー、ヨーロッパに行く」

佐納たか子著

免許をとって3か月、女ひとりヨーロッパ走りある記。そして、みなさま・チャビィのあの二人連れです。のタイトルのもとに海外および国内の業界レポートを本誌で連載した佐納たか子さんが、このほどヨーロッパ七日間二万キロのRD250の記録をもとに「女ライダー★ヨーロッパに行く」と題して、講談社から出版しました。

著者はヨーロッパひとり旅にバイクを選んだ理由として、①自分で気ままに動きまわれる足として、②とかく閉鎖的な車と異なり全身でしかにすべてを受けとめることができるなどと述べており、北欧から地中海沿岸を縦横に走破した体験を、快調なテンポで綴っています。

なお、各編の終りには「ヒント&インフォメーション」が加えられており、これから海外旅行を、と思っている方にはまたとない読物として推せんできます。新書版、二二〇ページ。六八〇円。書店で発売中。



# いや、本当に モトバイクは楽しい自転車です

東京都足立区  
川島 延平様

川島延平さんが、ヤマハ・モトバイクMB2を近所の山崎オートさんから購入したのは今年の6月。それまで3台の自転車を使っていたのが、現在では仕事にレジャーにと、MB2ばかりである。東京・足立区の川島製作所に勤務されている川島さんは、今年32歳。「最初に店頭でみたときに、形のユニークさと試乗のときの乗りごこちの良さにひかれてさっそく購入しました。」

実際、使ってみると、とにかく身体が楽で、乗っていておもしろいんですよ。歩道と車道の段など、他の自転車と違ってぜんぜん楽ですね。悪い道など、苦になるといふより、むしろ楽しいんです。それにオートバイなみのドラム・ブレーキですから、水たまりなどに入っても安心ですからね。だから自然と運動にもなるんですよ。」

川島さん自慢のMB2は、一見するとオートバイクそっくりである。「サドルの下にバッテリーを取付け、ライト、フラッシュヤールを装備し、クッションをYB50のものに改造したんです。だから、町の中を走っていると、よく人が振り返ってみますね。ちょっといい気持ちですよ。次の日曜日には、このMB2を知人に見せる約束になっています。もっとモトバイクが増えて、レースなんかができたらおもしろいでしょうね。」

川島さんにとって趣味というより、もうなくてはならないものらしい。足立区本木の自宅の近くはもとより、10km、15kmといった遠方に行くときも、このモトバイクを利用する。「まだ、当分MB2に凝るでしょうね。それだけ、乗りやすく、おもしろい自転車なんです。だから、どの自転車をと聞かれたら、自信をもってモトバイクを推薦しますね。」

川島さん、本当にありがとうございます。」



ご声援ありがとうございました

沖縄海洋博協会主催・太平洋横断単独無寄港ヨットレース  
**優勝!!「ウイング・オブ・ヤマハ」**

世界で初めての海の祭典、「沖縄海洋博」のビックイベント、「太平洋横断単独無寄港ヨットレース」に参加していました『ウイング・オブ・ヤマハ』（戸塚宏乗艇）は、9月21日アメリカ・サンフランシスコをスタートして以来、終始トップを走りつづけ、11月2日午後8時28分、無事海洋博会場アクアポリス前にゴール、みごと優勝を飾りました。サンフランシスコ～沖縄間6,500マイル（12,000キロ）のコースを41日14時間28分33秒で走破、2番艇以下を4日以上も引離してのフィニッシュです。こうした長丁場のレースとしては、『ウイング・オブ・ヤマハ』のこの記録は世界的にも例のない速さのもので、台風17号下では2日間不眠不休、食事もとらずに操舵した戸塚宏氏のシーマンぶりと共に、あらためて「水のヤマハ」の技術水準の高さに賞讃の声が寄せられています。  
長い間のご声援ありがとうございました。



自転車といえば、つい口をついて出るのがフレームの素材。無理ありません。自転車全体に占める割合は大きいし、価格も一番高い。サイクリストが自転車の良し悪しに、フレームの素材をとり上げるのも当然です。

まず知っておきたい、フレームの役割。  
各部品をしっかりと固定することです。

意外に見すごされているのが、このフレームの役割ではないでしょうか。乗り手も含めて、各構成部品の円滑な作動をはかるための固定、これがフレームの役割なのです。したがってまず工作精度が問われなければなりません。なのに、マンガンモリブデン鋼、クロムモリブデン鋼……と素材に固執するのはなぜでしょうか。もし、車体の軽量化による「軽い走行」のためと考えるのなら、それは間違いです。このシリーズ①で述べたとおり、車体の軽量化が及ぼす影響は、ごくわずかだからです。

前後のホイールをまっすぐに支えるのがフレーム。素材、チューブ構造は、乗り手の出力、他の部品とのバランスを考えたらうて決められるべきです。ペダルの高回転時に生じやすいウィップも、通常の回転では全く問題になりません。「良い自転車のフレーム」を考えると、高価な素材かどうかではなく、乗り手と使用目的に

見合っているか、が問題なのです。

ブジョーのフレームの  
設計・素材・精度は、  
そのままブジョーの姿勢です。

ブジョーの車種には、それぞれはっきりとした設計上の主張があります。使用目的から考え、

車種	フレーム	ヘッドアングル	シートアングル	標準現金価格
PX10E(ロードレーサー)	21インチ・レイノルズ®531°フルセット・ダブルバット(マンガンモリブデン鋼)	76°	75°30'	¥145,000
PR10(ロードレーサー)	21インチ・レイノルズ®531°(メインチューブ)ダブルバット	76°	75°30'	¥88,000
PA10E(ロードレーサー)	21インチ・ハイテンシヨナルスチール	76°	75°30'	¥75,000
J10(ロードレーサー)	20インチ・ハイテンシヨナルスチール	73°	73°30'	¥43,000
UE6(オールラウンドスポーツ)	21インチ・ハイテンシヨナルスチール トップチューブ570mm	73°	72°	¥57,000
PX50(ランドナー)	21インチ・ハイテンシヨナルスチール トップチューブ570	73°	72°	¥55,000

その車種に見合わないもの、余分なものは、かたくなに拒否します。フレームの素材についても同じ。より高度な走りが要求されるロードレーサーさえ、すべてにレイノルズ®531°フルセットが必要ではありません。レースに使用するのか、トレーニング用にするのか、ファストワンに使うのか、などによって、それぞれにふさわしい素材の採用が考えられるべきです。もちろんスポーツ車も同じ。共通していることは、設計、工作に駆使される深い経験をもった技術です。その成果のひとつに、ブジョーならではの立ったフレーム

と、長めのトップチューブがあります。一団となったゴールインする最近のロードレースでは、混戦から抜け出す機敏な操縦性と瞬発力が必要。そこで、ロードレーサーにもトラックレーサーのようにアングルを大きくとったフレーム設計を採用しているのです。また、スポーツ車では、トップチューブを長めにして、直進での安定性を

より高めています。このように、時流に目を奪われることなく、確固たる姿勢で自転車をつくりつづけるブジョーイズム。「本物の自転車」には、この「頑固さ」が必要なのではないでしょうか。ブジョーは1889年、フランスに生まれ、そして育った自転車。



主役は各部品であり、  
フレームは、その演技を支える  
舞台にすぎない。

●ブジョー、本年度フランス一周4000km(ツール・ド・フランス)優勝。

